

令和3年5月14日

姫路市長  
清 元 秀 泰 様

学校法人獨協学園  
理事長 吉田 謙一郎



### 姫路獨協大学の公立大学法人化に関する要望書

拝啓、時下ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。また、平素は獨協学園及び姫路獨協大学に対し格別のご理解とご支援を賜り心より厚く御礼申し上げます。

姫路獨協大学は、1987年、地域住民の総意を背景に、姫路市殿との公私協力方式により開学し、爾来30有余年に2万人を超える卒業生を地域社会に送り出すことができました。卒業生の約2割は姫路市内に在住し、また約7割は兵庫県内に在住するなど、地域企業等への人材供給に寄与するとともに、姫路市域の地域経済に約900億円の経済効果をもたらすなどの貢献をしてまいりました。

一方、我が国の18歳人口の減少と大学志願者の大都市集中により、地方の私立大学を取り巻く環境は依然として厳しい状況が続いています。このため、同大学では、この10年間に地域の人材需要の変化を見越し、従来の文系学部に加え、医療系分野での人材供給を目的に、医療保健学部、薬学部、看護学部を順次設置し、学生教育及び研究に尽力するとともに、人件費をはじめとする経費圧縮等の経営努力を現在も継続しているところです。

しかしながら、地方における私立大学の経営環境は、少子化の加速により、一層厳しくなることを踏まえ、同大学が高等教育機関として、教育・研究活動の充実に取り組みつつ、地域社会の発展に貢献できる人材を育成するという大学として使命を果たし続けるには、さらなる経営努力だけではなく、運営形態の見直しが不可欠との判断に至りました。

特に、既に他都市でも導入されております公立大学法人化による運営形態への移行は、今後、姫路市の経済・暮らし・文化などの各分野における新たな魅力を創出する地域資源となり、加えて内外の他地域の活力を従来以上に呼び込むことで、姫路市の一層の発展に寄与することができるものと考えます。

さらに、知名度や注目度の向上による入学志願者の増加と経営基盤の安定化が見込まれ、同大学の教学体制・施設整備の拡充が可能となり、ひいては優秀な人材を送り出すことによる幅広い意味での地域への貢献、地方創生の推進が可能と考えることから、同大学の公立大学法人化は最適であると考えております。

なお、獨協学園としては、同大学の公立大学法人化が実現した後も、大学運営に関して姫路市殿と公私協力関係を維持するとともに、キャストイ21イベントゾーンに獨協学園姫路医療系高等教育・研究機構を開設し、優秀な医療人材の育成と地域医療の向上に学園を挙げて貢献してまいります。

姫路市殿におかれましては、上記事情をご勘案いただくとともに、公私協力方式により設立した経緯を踏まえ、姫路獨協大学の公立大学法人化をご検討いただきますようお願い申し上げます。

以上